

十和田市事務事業評価シート

【事務事業の概要】

整理番号	②-56	実施計画番号	70	事業開始年度	平成15年度
事務事業名	スポーツいきいき健康づくり事業			事業終了年度	
担当課名	スポーツ・生涯学習課			事務の種類(選択)	自治事務
根拠法令等	関連事務事業				
背景や経緯等	地区体育振興会やスポーツ推進委員協議会と連携し、市民の健康づくりのため、気軽に参加できるスポーツ教室、大会を開催する。				
事務事業の目的	「市民ひとり1スポーツ」を体育・スポーツの基本方針に掲げ、生涯スポーツの視点に立ち、各年齢に応じた健康づくりを進める。				
実施状況	各軽スポーツ教室、大会をスポーツ推進委員や各協会の協力を得ながら実施している。				

【人件費の推移】

		26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
正職員	従事者数(人)	1	1	1
	活動日数(日)	25	25	25
	人件費(千円)	900	900	900
正職員以外(選択↓)	従事者数(人)	4	4	4
	活動日数(日)	15	15	15
	人件費(千円)	153	153	153

【事業費の推移】

		26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
事業費合計(千円)		214	237	241

【指標】

活動指標	活動指標名①		スポーツ教室 スポーツ大会 各地区巡回 実施回数			
	計算式等		単位	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
			回	23	15	20
	活動指標名②					
	計算式等		単位	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
成果指標	成果指標名①		スポーツ教室 スポーツ大会 各地区巡回 参加者数			
	計算式等		単位	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
			人	400	400	450
			実績値	508	380	
			達成度(%)	127%	95%	
	成果指標名②					
	計算式等		単位	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
			目標値			
		実績値				
		達成度(%)				

十和田市事務事業評価シート

【担当課による検証】

ポイント		検証(選択)	評価	点数	合計	検証の理由				
妥当性	①	市民ニーズ等から見る妥当性 市民ニーズや時代潮流の変化により、事務事業の役割が薄れていないか	A 薄れていない B 幾分薄れている C 薄れている	A 2	4	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: right;">存在意義の見直しの余地</td> <td style="text-align: center;">0 / 4</td> </tr> <tr> <td colspan="2">①市民の健康増進のために、団体の協力を得ながら実施している。 ②民間との競争はない。</td> </tr> </table>	存在意義の見直しの余地	0 / 4	①市民の健康増進のために、団体の協力を得ながら実施している。 ②民間との競争はない。	
	存在意義の見直しの余地	0 / 4								
①市民の健康増進のために、団体の協力を得ながら実施している。 ②民間との競争はない。										
②	実施主体である妥当性 行政が実施することが妥当か(民間と競合していないか)	A 妥当である B あまり妥当ではない C 妥当ではない	A 2							
有効性	③	活動指標から見る有効性 活動指標の実績は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	A 2	5	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: right;">成果向上の余地</td> <td style="text-align: center;">1 / 6</td> </tr> <tr> <td colspan="2">③活動指標の実績は順調である。 ④目標達成のため、夜間等の時間帯に軽スポーツ教室を実施している。 ⑤成果向上のため、事業への参加者を増やすことを検討する余地がある。</td> </tr> </table>	成果向上の余地	1 / 6	③活動指標の実績は順調である。 ④目標達成のため、夜間等の時間帯に軽スポーツ教室を実施している。 ⑤成果向上のため、事業への参加者を増やすことを検討する余地がある。	
	成果向上の余地	1 / 6								
	③活動指標の実績は順調である。 ④目標達成のため、夜間等の時間帯に軽スポーツ教室を実施している。 ⑤成果向上のため、事業への参加者を増やすことを検討する余地がある。									
④	成果指標から見る有効性 成果指標の目標達成状況は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	A 2							
⑤	事務事業の見直しの余地 成果を向上・安定させるため、事務事業の見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	B 1							
効率性	⑥	事業費の削減の余地 事務手順の見直しや正職員以外での対応により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A 2	4	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: right;">コスト削減の余地</td> <td style="text-align: center;">2 / 6</td> </tr> <tr> <td colspan="2">⑦⑧他の事業との統合や事業を民間に委託することを検討する余地がある。</td> </tr> </table>	コスト削減の余地	2 / 6	⑦⑧他の事業との統合や事業を民間に委託することを検討する余地がある。	
	コスト削減の余地	2 / 6								
	⑦⑧他の事業との統合や事業を民間に委託することを検討する余地がある。									
⑦	他の事務事業との統合・連携 類似又は関連事業との統合・連携により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	B 1							
⑧	民間委託等 民間委託・指定管理者・PFI等により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	B 1							
公平性	⑨	受益の偏り 現在の受益は公平か。特定の個人・団体に受益が偏っていないか	A 偏っていない B 多少偏っている C 偏っている	A 2	4	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: right;">受益者負担適正化の余地</td> <td style="text-align: center;">0 / 4</td> </tr> <tr> <td colspan="2">⑨⑩受益の偏りはなく、受益者負担の見直しの余地はない。</td> </tr> </table>	受益者負担適正化の余地	0 / 4	⑨⑩受益の偏りはなく、受益者負担の見直しの余地はない。	
	受益者負担適正化の余地	0 / 4								
⑨⑩受益の偏りはなく、受益者負担の見直しの余地はない。										
⑩	受益者負担の見直しの余地 現在の受益者負担は適切か。見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	A 2							
現在の適性					17 / 20	改善の余地	3 / 20			

【点数化による検証】

当該事業の現在の適性は20点中 **17** 点です。

当該事業の改善の余地は20点中 **3** 点です。

【担当課長による評価】

当該事業の今後の方向性(選択) ※事業終了年度がH27の場合は回答不要

有効性を改善して継続

方向性の理由 ※事業終了年度がH27の場合は回答不要

心身ともに健康で楽しい生涯生活をおくるには「適度に身体を動かすこと」が効果的であり、生活習慣の中に「運動する習慣を組み込んでいく」という動機づけのためにも、軽スポーツ教室の開催は重要な事業である。

今後の具体的な取組方策と狙う効果 ※事業終了年度がH27の場合は、『事業を実施したことにより今後見込まれる効果』を記載してください。

軽スポーツ教室の種目によっては参加者数に開きがあることから種目の検証を行っていくほか、広報誌、新聞、及びホームページなどによる周知のほか、地区体育振興会15地区に配置している「生涯スポーツ推進委員」の協力を仰ぎながら、広く参加を呼びかけ軽スポーツの普及拡大に努める。